

# 医師供給数の推計

2015年12月10日

千葉大学 予防医学センター  
千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部  
藤田伸輔

# 取得したデータ

- 医師・歯科医師・薬剤師調査
  - 医師票4,533,298レコード  
(1972年～2012年調査分)
- 医籍登録番号・医籍登録年一覧
  - 日本人517,545レコード 外国人7,897レコード  
(1871年～2015年登録分)
- 上記2つの調査について、医籍登録番号を利用してひも付けし、重複の削除等データの整理を行った

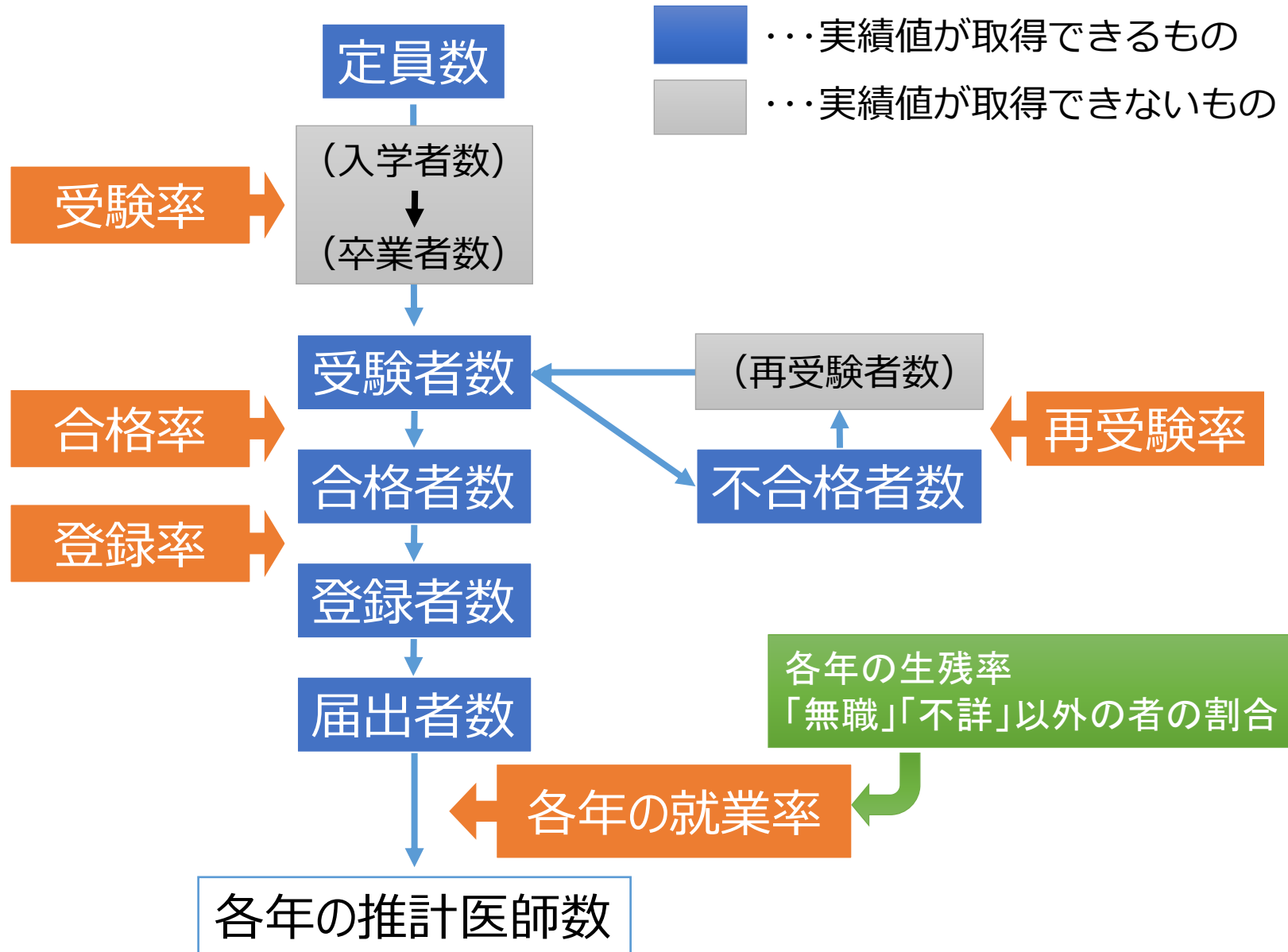
# データの整理（医師・歯科医師・薬剤師調査）

	レコード数	重複数	読込数(重複排除後)	重複割合
1972年	125,302	918	124,384	0.733%
1974年	128,455	846	127,609	0.659%
1976年	134,934	854	134,080	0.633%
1978年	142,984	902	142,082	0.631%
1980年	156,235	892	155,343	0.571%
1982年	167,952	942	167,010	0.561%
1984年	181,101	1,038	180,063	0.573%
1986年	191,346	1,039	190,307	0.543%
1988年	201,658	1,059	200,599	0.525%
1990年	211,797	1,156	210,641	0.546%
1992年	219,704	940	218,764	0.428%
1994年	230,519	0	230,519	0.000%
1996年	240,908	256	240,652	0.106%
1998年	248,611	9	248,602	0.004%
2000年	255,792	0	255,792	0.000%
2002年	262,687	0	262,687	0.000%
2004年	270,371	0	270,371	0.000%
2006年	277,927	0	277,927	0.000%
2008年	286,699	4	286,695	0.001%
2010年	295,049	2	295,047	0.001%
2012年	303,268	3	303,265	0.001%

2000年以降、重複等のデータの不備はほぼなくなっている。

# 推計方法と パラメータのこれまでの傾向

# 推計のフローについて



# 推計パラメータの設定について

受験率

**受験率 = 受験者数 / 6年前の入学定員数**

2006～2015年の受験者の受験率(2000年～2009年の入学者に対する割合)の中央値が維持されるものと仮定



100.4%

※定員超えの入学者数分や、留学、留年など遅れて受験する学生がいるため、100%を超えている

再受験率

**再受験率 = 既卒の受験者数 / 前年の不合格者数**

2006～2015年の受験者の再受験率(2005年～2014年の不合格者に対する割合)の中央値が維持されるものと仮定



99.3%

合格率

**合格率 = 合格者数 / 受験者数**

2006～2015年の受験者の合格率の中央値が維持されるものと仮定



新卒 : 93.9% 既卒 : 58.3%

# 推計パラメータの設定について

## 登録率

$$\text{登録率} = \text{医籍登録者数} / \text{合格者数}$$

2006～2015年の合格者の医籍登録率の中央値が維持されるものと仮定



100.2%

※留学や帰化などで遅れて登録する者がいるため、100%を超えている

## 各年の生残率

$$\text{生残率} = \text{登録後年数別の届出者数} / \text{医籍登録者数}$$

2002～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査の医師届出票における生残率(各登録後年数別の医籍登録者に対する割合)の中央値を利用

## 各年の就業率

$$\text{就業率} = \text{生残率} \times (\text{業務の種別が「無職」「不詳」以外の届出者数} / \text{全届出者数})$$

2002～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査の医師届出票における業務の種別で「無職」「不詳」と回答した者を除いた割合の中央値を利用



生残率と就業率は登録後年数により変動する

# 男女比率の設定について

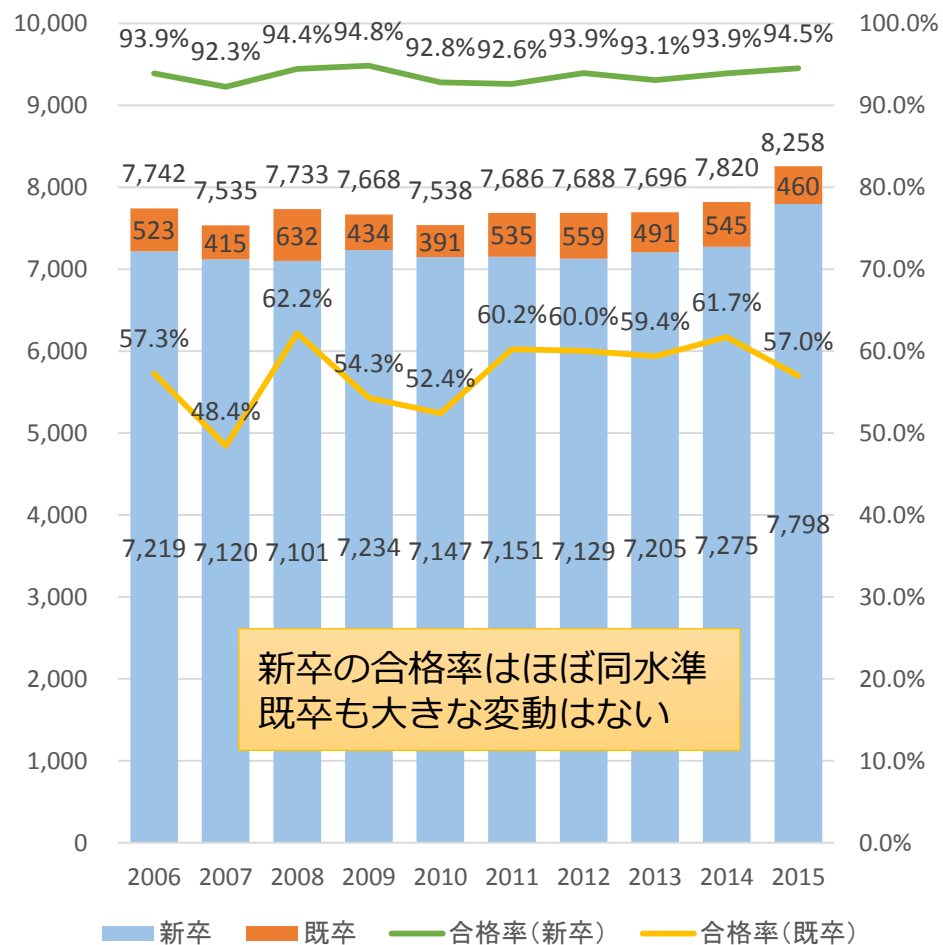
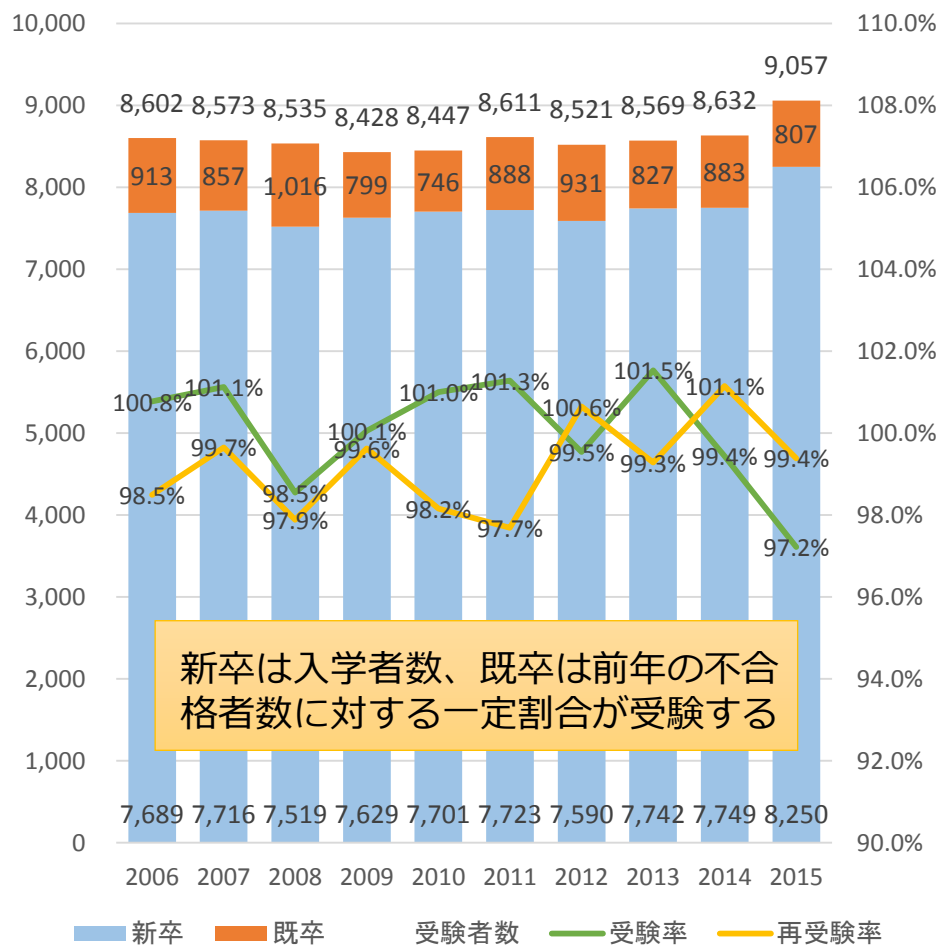
- 以下のパラメータについては、男女別に設定している
- 将来推計分については、過去の男女別のデータから明らかな増加・減少のトレンドがないと判断し、直近10年間のデータの中央値が維持されるものとして推計している
  - 受験者数男女比： 2006年～2015年受験者
  - 合格率： 2006年～2015年受験者
  - 医籍登録率： 2006年～2015年登録者
  - 医籍登録後年数別生残率： 2002年～2012年医師・  
歯科医師・薬剤師調査
  - 医籍登録後年数別就業率： 2002年～2012年医師・  
歯科医師・薬剤師調査



# 受験率（再受験率）・合格率の推移

## 受験者数・受験率の推移

## 合格者数・合格率の推移

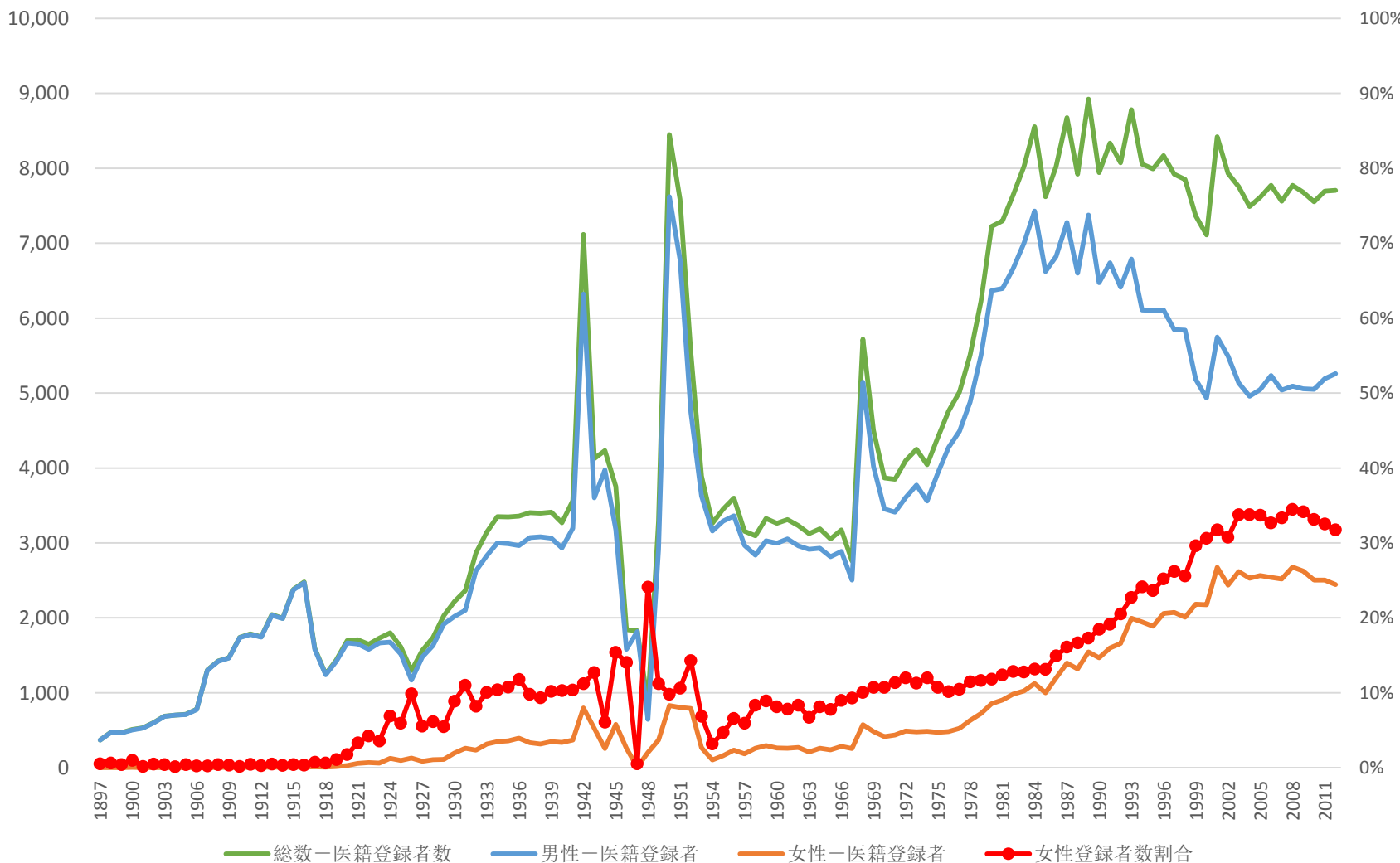


※2006年の新卒者数は2000年入学者数と対比させている。

# 医籍登録者数の推移

医籍登録者数(人)

女性登録者割合

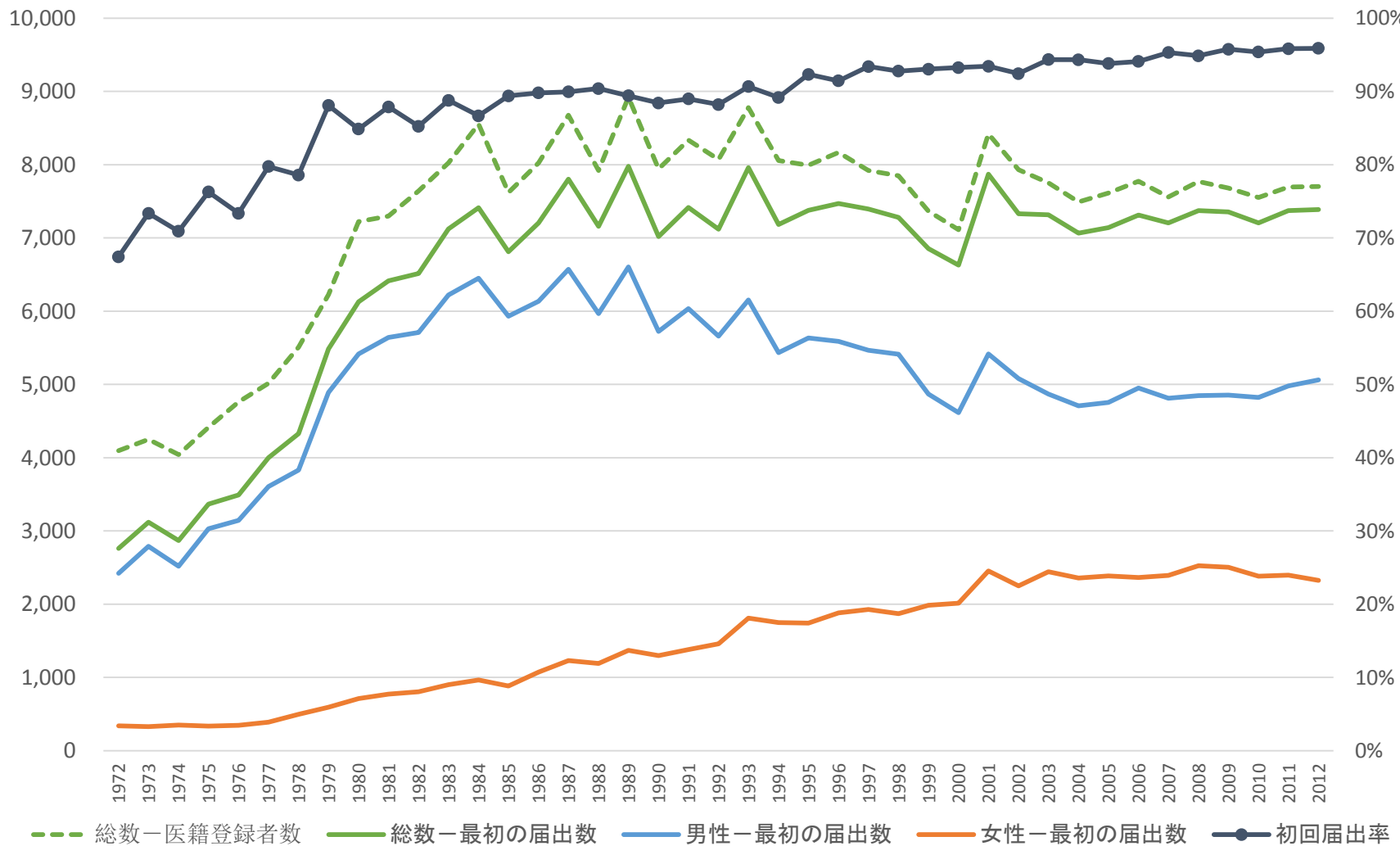


※1972年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成

# 医師届出票届出者数の推移

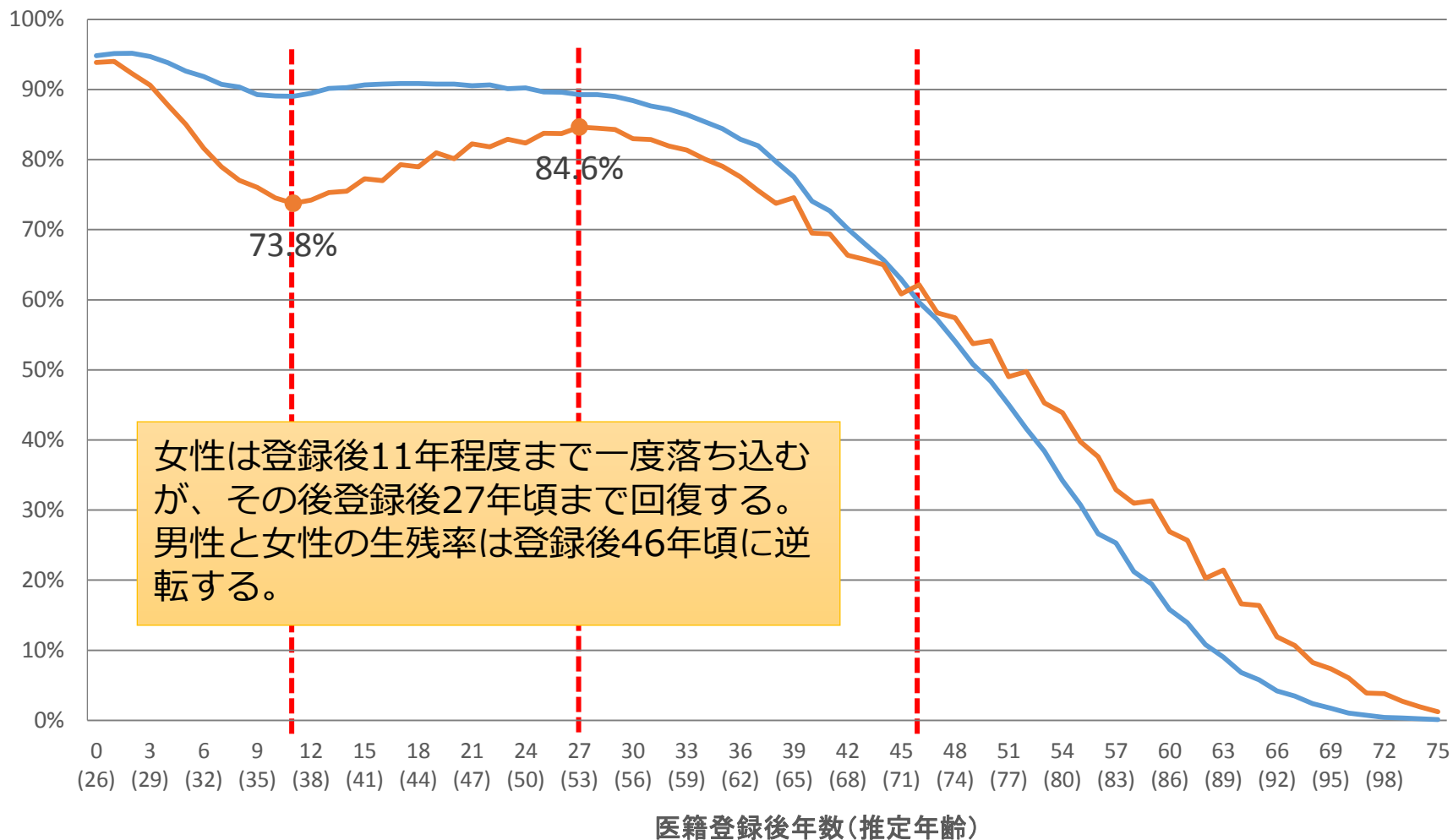
医籍登録者数  
届出数（人）

初回届出率



※1972年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成

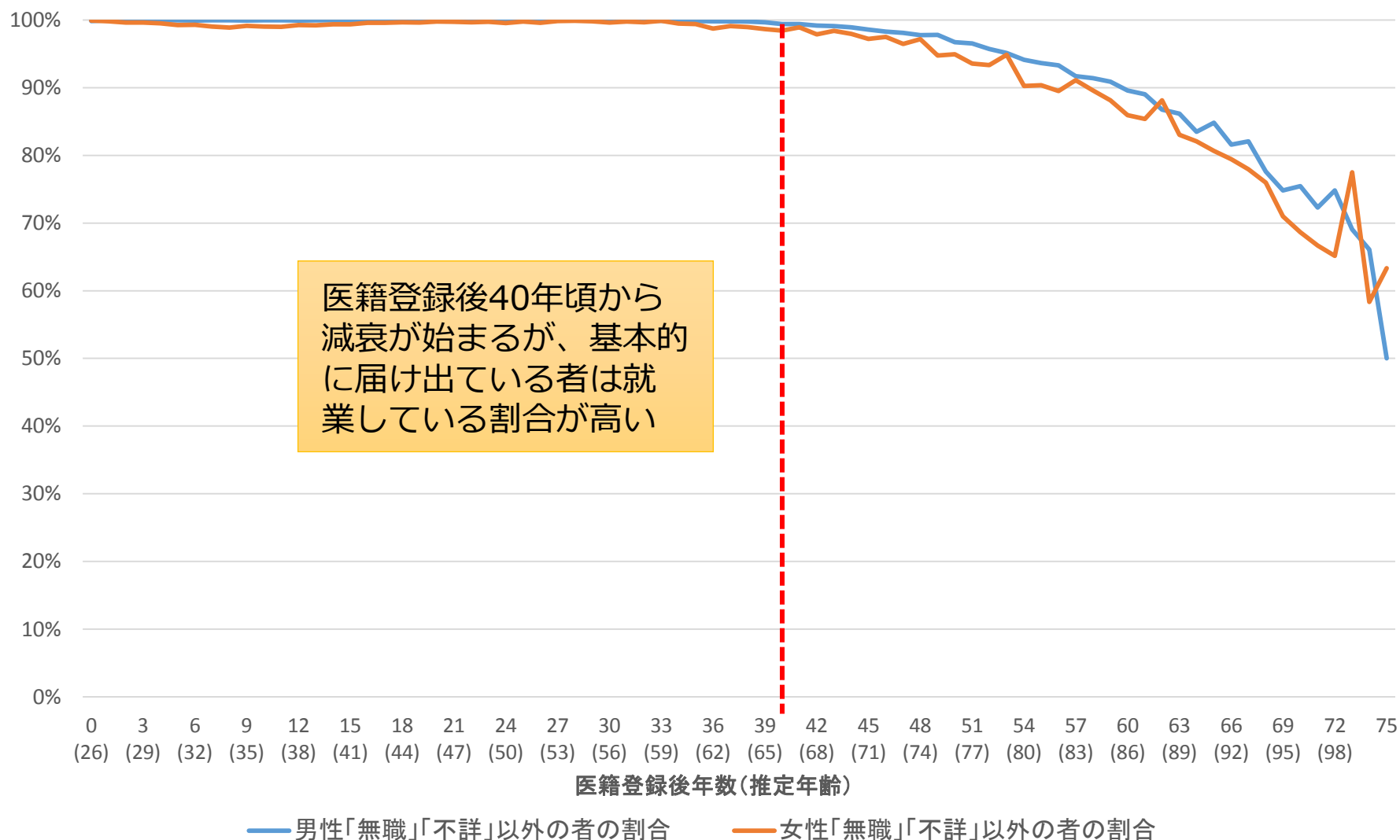
# 医籍登録後年数別の生残率



— 男性生残率 — 女性生残率

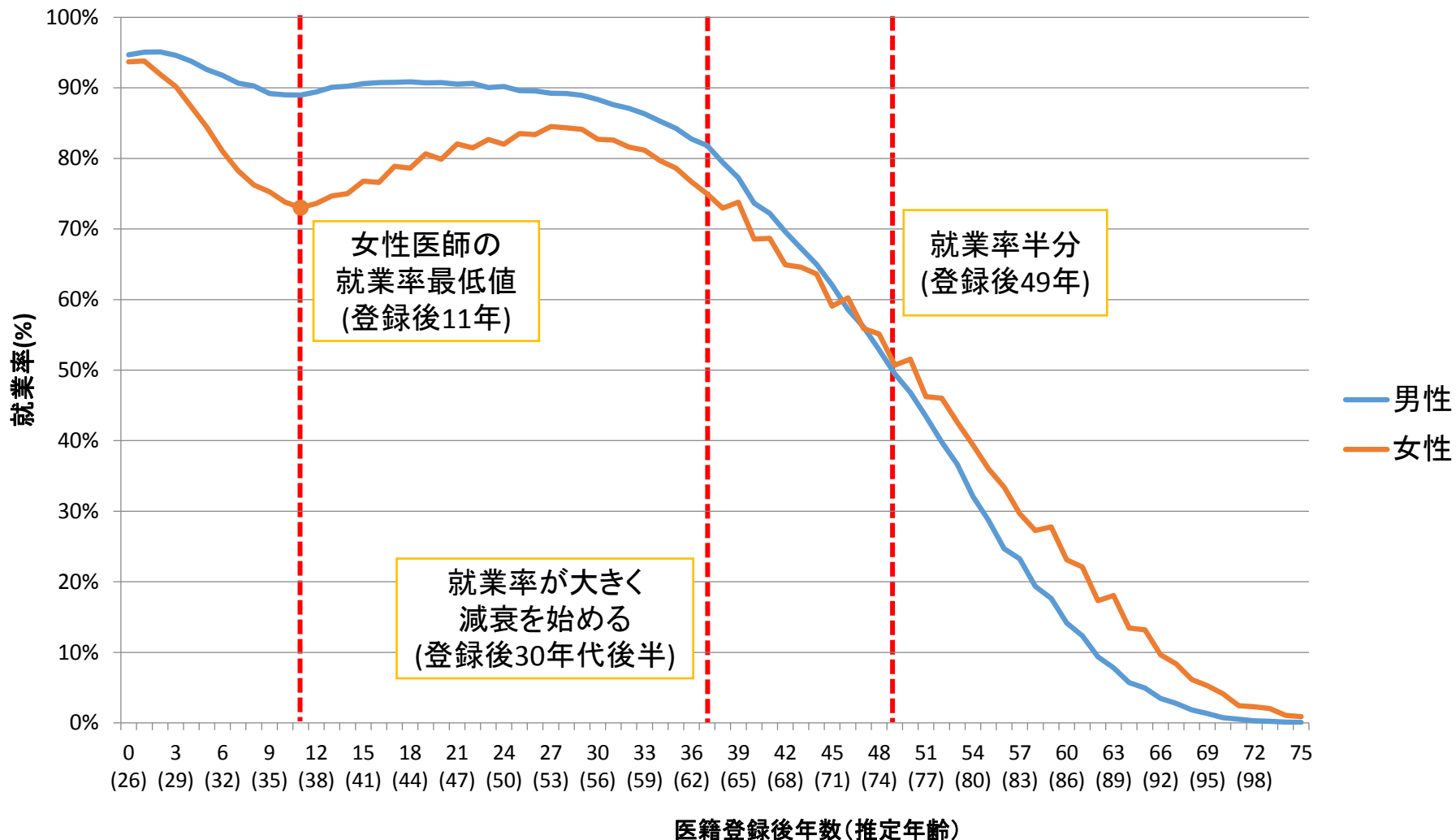
※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成  
 ※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

# 医籍登録後年数別の「無職」「不詳」を除いた割合



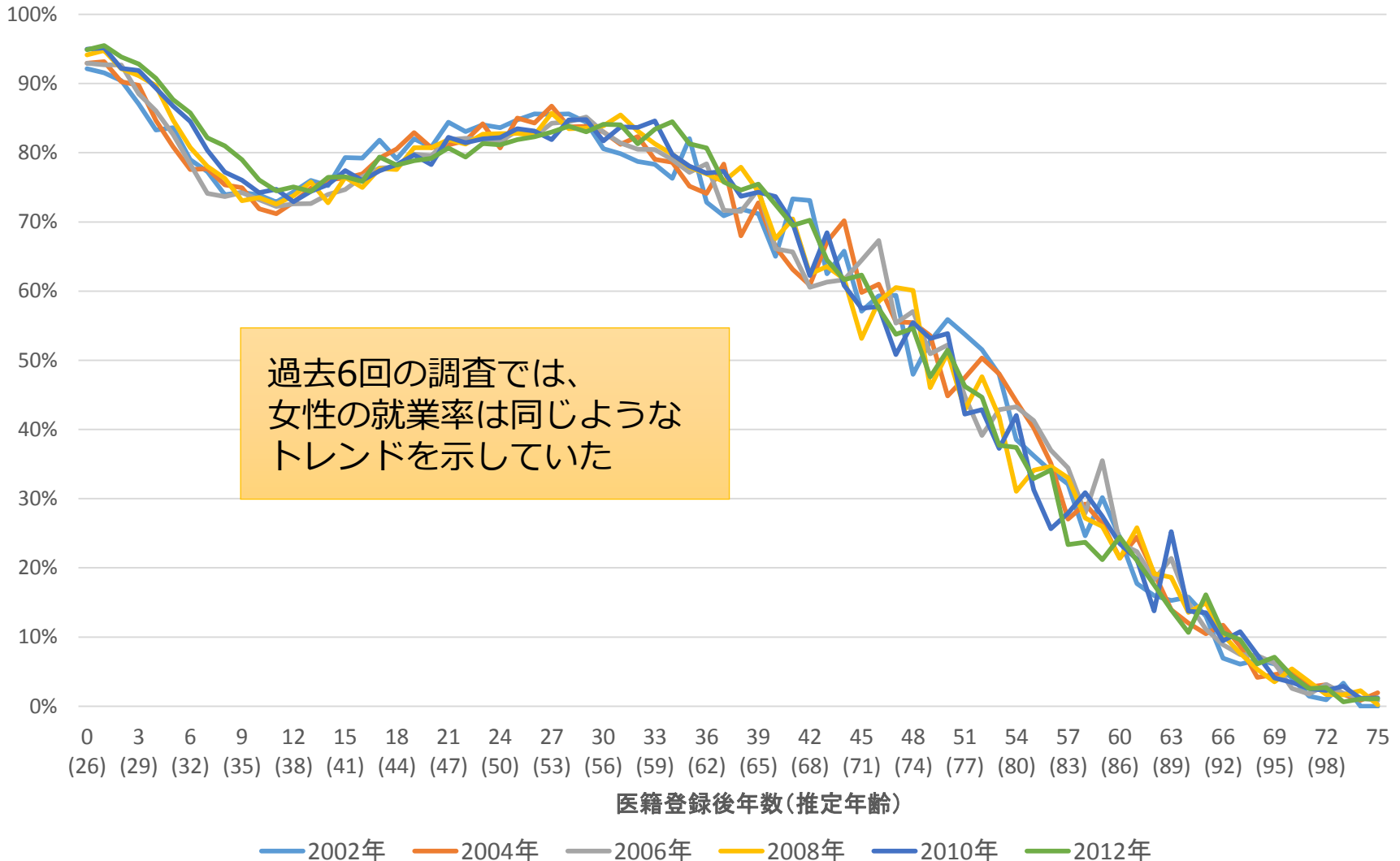
※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成  
 ※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

# 医籍登録後年数別の就業率



※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成  
 ※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

# 女性の就業率の推移



※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成  
 ※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

# 医師供給数の推計結果



# シナリオの設定について

2008年・2009年からの医学部臨時定員は2017年まで、  
2010年からの医学部臨時定員は2019年までで終了とされているが、2018年以降の定員について2つのシナリオを設定した

※2016年の医学部定員数は臨時定員を含め9,262名となる見通し

2017～2019年の追加の臨時定員の人数は未定だが、2011～2016年の平均である52名ずつ増加するものと仮定

## Aパターン

臨時定員を今後も維持する

2017年：9,454名 2018年：9,506名

2019年：9,558名 2020年～2029年：9,558名

## Bパターン

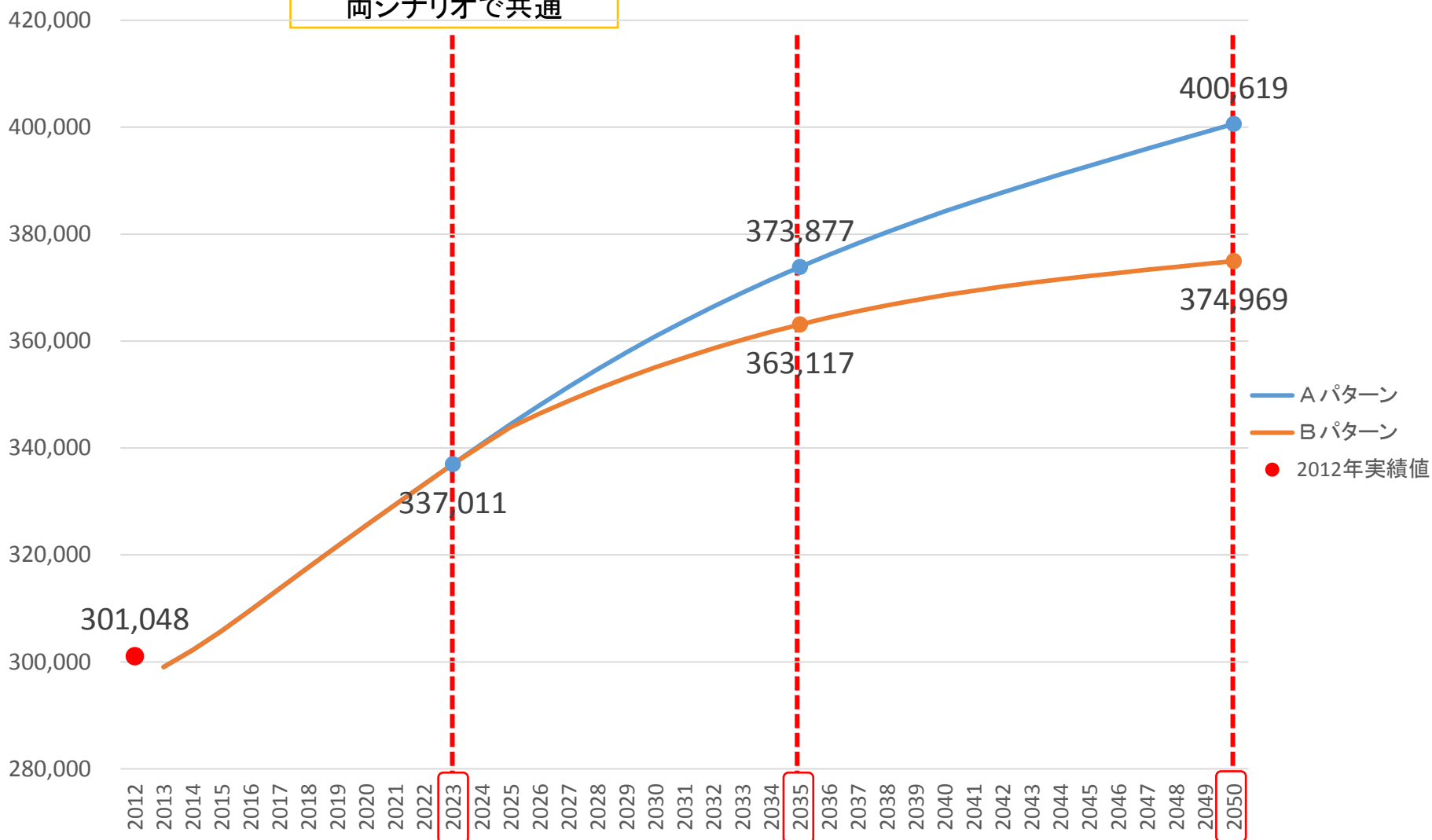
臨時定員は2017・2019年でそれぞれ終了し、  
その後は恒久定員分のみ維持する

2017年：9,454名 2018年：9,189名

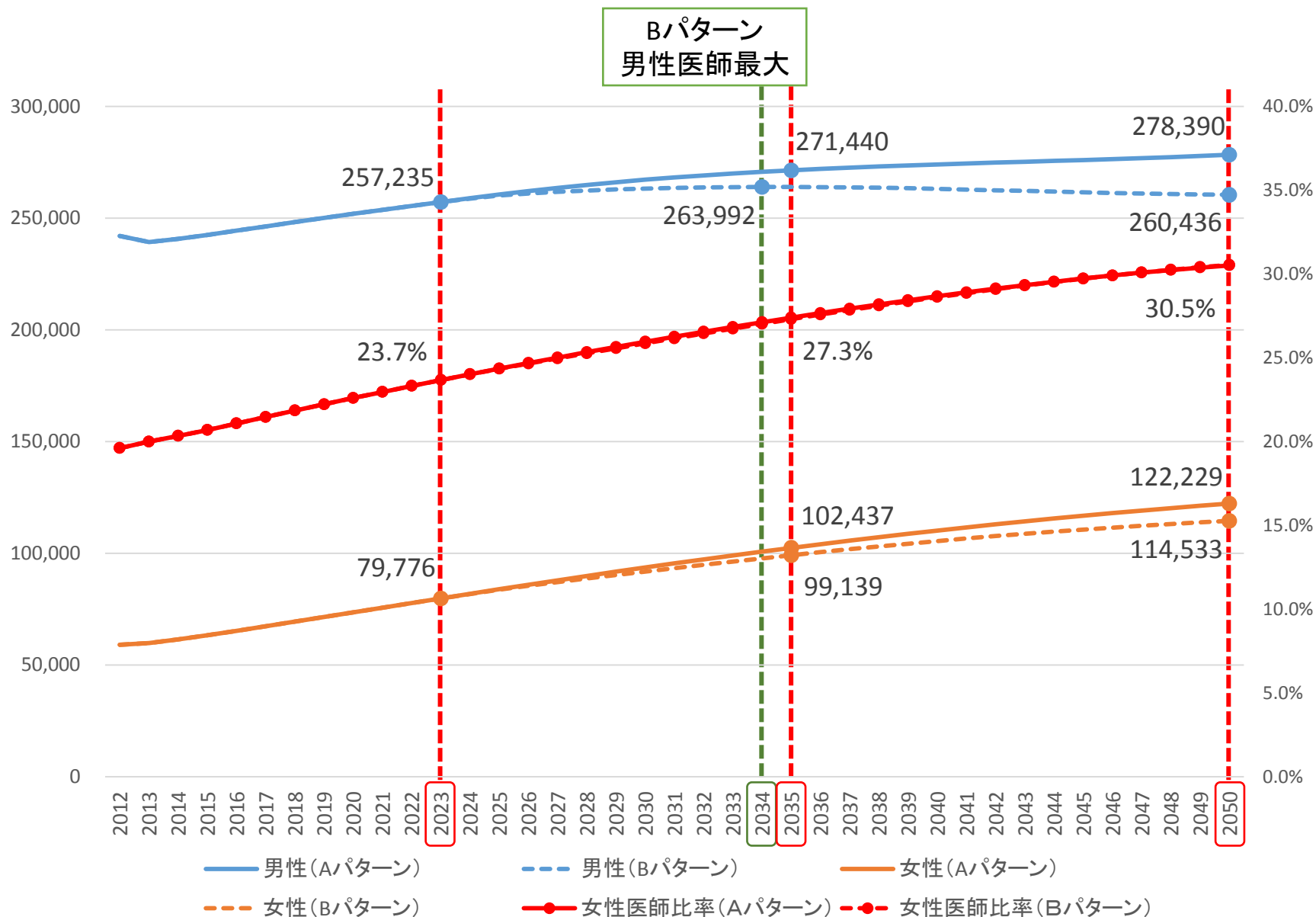
2019年：9,241名 2020年～2029年：8,409名

# 医師供給数の推計結果

2017年までの入学定員  
=2023年の卒業生数は  
両シナリオで共通



# 医師供給数の推計結果



# 人口対医師供給数の推計値の推移

